

施策②：利用が少ないバス路線・区間のサービス水準・運行形態の見直しによる効率化

- 雲仙市内での乗降がほとんど見られない路線・区間については、ダイヤ改正等による運行効率化の検討を行うとともに、将来的には他の交通手段による対応など、運行形態の見直しも視野に効率化を検討します。
- 利用者は少ないものの定期的な利用が見られる路線・区間については、定期利用が見られる朝・夕時間帯に特化したダイヤ設定や、将来的には他の交通手段などへの転換による効率化を検討します。
- 新たな情報技術（自動運転車両等）の活用も視野に、温泉街や商店街などにおける回遊の促進等に向けた新たな移動サービス導入の可能性を検討します。

評価指標

指標①-1：雲仙市の財政負担額
指標①-3：路線バスの収支率
指標③-3：路線バスの年間利用者数

【施策の進め方等】

- ✓ 雲仙市と交通事業者が連携して、見直しが必要な路線・区間の洗い出しを行うとともに、見直し内容等を検討し、地域や隣接自治体などとも協議・調整しながら運行効率化・運行形態の見直しや広域移動手段の確保を検討・推進します。
- ✓ 雲仙市と交通事業者が連携して、新たな情報技術についての調査・研究を行い、関係団体とも協議・調整しながら新たな移動サービスの導入の可能性を検討します。

表 1 施策の実施スケジュール（施策②）

	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)
②利用が少ないバス路線・区間のサービス水準・運行形態の見直しによる効率化	随時見直し対象路線・区間の抽出、見直し内容の検討を実施 交通事業者や隣接自治体と調整しながらダイヤ・運行形態等の見直しを検討				
	新たな情報技術についての調査・研究、導入の可能性検討				

施策②：利用が少ないバス路線・区間のサービス水準・運行形態の見直しによる効率化

- 雲仙市内での乗降がほとんど見られない路線・区間については、ダイヤ改正等による運行効率化の検討を行うとともに、将来的には他の交通手段による対応など、運行形態の見直しも視野に効率化を検討します。
- 利用者は少ないものの定期的な利用が見られる路線・区間については、定期利用が見られる朝・夕時間帯に特化したダイヤ設定や、将来的には他の交通手段などへの転換による効率化を検討します。
- 新たな情報技術（自動運転車両等）の活用も視野に、温泉街や商店街などにおける回遊の促進等に向けた新たな移動サービス導入の可能性を検討します。
- 物理的、時間的な交通空白解消に向けた取組みについて、調査・研究を行います。

評価指標

指標①-1：雲仙市の財政負担額
指標①-3：路線バスの収支率
指標③-3：路線バスの年間利用者数

【施策の進め方等】

- ✓ 雲仙市と交通事業者が連携して、見直しが必要な路線・区間の洗い出しを行うとともに、見直し内容等を検討し、地域や隣接自治体などとも協議・調整しながら運行効率化・運行形態の見直しや広域移動手段の確保を検討・推進します。
- ✓ 雲仙市と交通事業者が連携して、新たな情報技術についての調査・研究を行い、関係団体とも協議・調整しながら新たな移動サービスの導入の可能性を検討します。
- ✓ 関係団体との連携による交通空白対策の調査・研究を行います。

表 8 施策の実施スケジュール（施策②）

	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)
②利用が少ないバス路線・区間のサービス水準・運行形態の見直しによる効率化	随時見直し対象路線・区間の抽出、見直し内容の検討を実施 交通事業者や隣接自治体と調整しながらダイヤ・運行形態等の見直しを検討				
	新たな情報技術についての調査・研究、導入の可能性検討				
	関係団体との連携による交通空白対策の調査・研究				

9. 計画の推進・進捗管理

(1) 施策展開のロードマップ

計画期間中は以下のスケジュールに基づいて施策展開を推進することとし、年度ごとの実施状況を確認するとともに、必要に応じてスケジュールの見直しを行います。

	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)
方向性①：基幹的な交通軸の維持と需要等に応じたサービス水準の適正化					
①基幹的な交通軸の持続性の維持・向上	他の施策とも連動しながら需要集約・利用促進を展開				
	路線バスの利用状況を毎年度確認、(必要に応じて)系統再編を検討・実施				
②利用が少ないバス路線・区間のサービス水準・運行形態の見直しによる効率化	随時見直し対象路線・区間の抽出、見直し内容の検討を実施 交通事業者や隣接自治体を調整しながらダイヤ・運行形態等の見直しを実施				
	新たな情報技術についての調査・研究、導入の可能性検討				
方向性②：チョイソコウゼんの利用状況等の継続的なモニタリング					
③チョイソコウゼんの利用状況等のモニタリング	チョイソコウゼんの利用状況等のモニタリング、(必要に応じて)最適化に向けた検討				
方向性③：ネットワークとしての一体性を高める交通拠点の維持・充実					
④主要な交通拠点における交通結節機能の維持・充実	待合環境の確保・充実				
	系統再編にあわせた乗り継ぎダイヤの設定 乗り継ぎに関する情報提供の充実				
⑤各拠点の乗り継ぎポイントにおける待合環境の確保	乗り継ぎポイントを検討 周辺施設等との協議・調整を行いながら待合環境を確保				
方向性④：関連分野との連携や多様な主体との連携による移動サービスの確保・利用促進					
⑥公共交通に関する総合的な情報提供・利用促進策の展開	利用促進策等を検討した上で、情報提供のためのツールを作成 情報提供・利用促進策等の展開				
⑦広域的な観光周遊促進策の展開	多様な主体との協議・調整を行いながら連携した取り組みを検討 段階的に周遊促進策を実施				
⑧多様な主体が移動サービスを支える仕組みの導入	仕組み(制度)を検討 多様な主体との協議・調整、連携に向けた働きかけの実施				
⑨地域活動やイベントなどとの連携	イベント主催者や自治会などへの働きかけ				

9. 計画の推進・進捗管理

(1) 施策展開のロードマップ

計画期間中は以下のスケジュールに基づいて施策展開を推進することとし、年度ごとの実施状況を確認するとともに、必要に応じてスケジュールの見直しを行います。

	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)
方向性①：基幹的な交通軸の維持と需要等に応じたサービス水準の適正化					
①基幹的な交通軸の持続性の維持・向上	他の施策とも連動しながら需要集約・利用促進を展開				
	路線バスの利用状況を毎年度確認、(必要に応じて)系統再編を検討・実施				
②利用が少ないバス路線・区間のサービス水準・運行形態の見直しによる効率化	随時見直し対象路線・区間の抽出、見直し内容の検討を実施 交通事業者や隣接自治体を調整しながらダイヤ・運行形態等の見直しを実施				
	新たな情報技術についての調査・研究、導入の可能性検討				
				関係団体との連携による交通空白対策の調査・研究	
方向性②：チョイソコウゼんの利用状況等の継続的なモニタリング					
③チョイソコウゼんの利用状況等のモニタリング	チョイソコウゼんの利用状況等のモニタリング、(必要に応じて)最適化に向けた検討				
方向性③：ネットワークとしての一体性を高める交通拠点の維持・充実					
④主要な交通拠点における交通結節機能の維持・充実	待合環境の確保・充実				
	系統再編にあわせた乗り継ぎダイヤの設定 乗り継ぎに関する情報提供の充実				
⑤各拠点の乗り継ぎポイントにおける待合環境の確保	乗り継ぎポイントを検討 周辺施設等との協議・調整を行いながら待合環境を確保				
方向性④：関連分野との連携や多様な主体との連携による移動サービスの確保・利用促進					
⑥公共交通に関する総合的な情報提供・利用促進策の展開	利用促進策等を検討した上で、情報提供のためのツールを作成 情報提供・利用促進策等の展開				
⑦広域的な観光周遊促進策の展開	多様な主体との協議・調整を行いながら連携した取り組みを検討 段階的に周遊促進策を実施				
⑧多様な主体が移動サービスを支える仕組みの導入	仕組み(制度)を検討 多様な主体との協議・調整、連携に向けた働きかけの実施				
⑨地域活動やイベントなどとの連携	イベント主催者や自治会などへの働きかけ				